

『A I を過信しすぎるな』

那賀中学校 3年 面本 陽奏

私は最近ニュースや身近な人の間でA Iという言葉をよく聞きます。そして私自身もA Iを使うことが多いです。そこで私はA Iの使い方について考えました。その結果A Iはまるで魔法使いのようで、使い方を間違えれば両刃の剣になると思いました。

まずA Iが私達に与えてくれる良い事と悪い事を紹介します。

例えば学習アプリ、翻訳機能、検索エンジンなどは日常生活に役立っています。特に私は検索をするときによくA Iに頼ります。逆に偏った情報、プライバシー侵害などの悪い面もあります。

例えば、C h a t G P Tなどの生成A Iサービスに、個人情報を入力してしまい、第三者へ出力されてしまうなどのハプニングがあります。だからA Iの使い方は間違わないようにしましょう。

次にA Iと共存するために必要なことは何かについてを大きく2つ紹介します。

1つ目はA Iを正しく理解することです。その為に1番大事なのは「実際に使ってみる」ことが最も簡単で効果的です。

2つ目はA Iに頼りすぎず、自分で考える力を身につけることです。A Iに頼りすぎると、考える力の低下、嘘の情報を信じ込むかもしれないリスク、主体性がなくなるなどのデメリットがあります。だからA Iに頼るのはほどほどにしましょう。このことからA Iと共存するためには正しい使い方を考える必要があります。

ここでA Iが私達に突きつけてくる課題について話していきます。その1つがA Iに仕事をうばわれてしまうということです。実際にこの先A Iにうばわれてしまう可能性がある仕事について調べてみたので紹介したいと思います。可能性が最も高いのは、「一般事務員」「データ入力業務」などです。なぜなら、A Iは人と違って正確なデータ入力、文書作成、情報の整理などが出来るからです。そのため人を使わないので効率的でコスト削減につながります。逆にA Iにうばわれない仕事についても調べてみました。例えば、看護師などの正解が1つじゃない仕事、美容師や介護などの体を使う仕事などがありました。調べてみてA Iが関わる仕事が増えると思いますが、人の気持ちや、人の手で出来る仕事もあることが分かったので、将来どんな仕事をするのか考えるきっかけになりま

した。

私が実際にA Iを使ってみて感じたことがあります。それはA Iは万能ではないということです。あるとき塾の宿題が難しかったのでA Iの学習アプリを使って調べました。しかし、間違った内容が表示されました。そのときA Iの答えをそのまま信じるのではなく、自分で考えて問題を解きました。A Iに頼りすぎると間違った答えを信じたり、自分で考えなくなってしまうなと感じました。A Iを上手く使うためにはどうすればいいか、私は「答えを出してくれるもの」ではなく、「考えるヒントをくれるもの」として使うことが大切なのかなと思いました。まず自分で考えそれでも分からないときにA Iを使ってヒントをもらう。そしてその情報が正しいかどうかを自分で判断することでA Iはとても役に立つ存在になるんじゃないかと思いました。

これからの社会では、A Iはさらに進化して私達の生活に関わってくると思います。だからこそ、私達は、A Iに使われるのではなく、A Iを使いこなす力を身につけなくてはならないです。そのためには、自分の頭で考える習慣を大切にしたり、情報を正しく判断する力が必要だと思いました。私もA Iに頼りすぎってしまう所があるので、これからの生活では自分の力をのばそうと思います。

